

# 街に輝く！若者のチカラ

BUSINESS

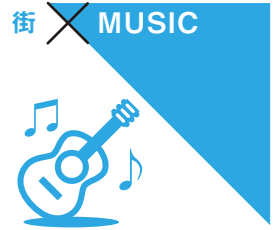
SPORTS

CAFE

MUSIC

札幌には、自らの夢や目標に向かって活動しながら、生まれ育った街のために行動している若者がいます。今回の特集では、この街で元気に活躍するミュージシャン、学生、アスリート、起業家へインタビュー。それぞれの活動への思いを通じて、若者が街や社会にもたらすもの、そして私たちにできることを考えます。





音楽を通じて子どもたちと一緒に北海道を盛り上げたい

— 歌手として活躍する傍ら、ボランティア活動などを行う「あおぞらプロジェクト」を立ち上げたと聞きました。

はい。子どもたちは将来の街をつくるかけがえのない存在です。その子どもたちには夢を持っていてほしい、そして暮らしの安全も守りたいと思いい、立ち上げました。今は、公園に時計を設置する取り組みを中心に活動しています。

— なぜ公園に時計を設置しようと考えたのですか？

きっかけは、親交のある町内会の方に「公園で遊ぶ子どもが、何度も近所の家に行つて時間を確認している」と聞いたことです。帰宅時間が遅くなつたら危ないですし、時間を守る習慣も身に付けてほしいと考え、町内会に提案しました。早速ライブなどで寄付金を募り、町内会にも協力していただき、昨年7月に時計を設置することができました。



昨年7月に北区「篠路はまなす公園」にプロジェクト第1号となる時計を設置。



撮影協力：NORTH WAVE

シンガーソングライター  
さとう こうだい  
佐藤 広大さん

1985年、札幌市生まれ。音楽を通して感動、感謝を伝えたいという思いから、自らの音楽を「**恩楽**」と称して、恩返しをテーマに歌を届けるシンガーソングライター。広報ラジオ番組「サッポロ・シティ・ナビ」(下記)でDJを担当。

— 子どもたちから反応はありましたか？

公園で遊んでいる子どもたちから感謝の手紙をもらったんです。そこに書かれた率直な言葉がうれしくて、続けていこうと思いましたが。今年、すでに市内2カ所で時計の設置が決まっています、この取り組みを道内各地に広げていきたいと考えています。

— 他にも、学校などで活動されているのですよね？

幼稚園や小中学校でライブやレクリエーションをしたり、講演をしたりしています。子どもたちに夢を持つ大切さを伝えられるだけでなく、今の子どもたちの考え方などを知ることができる貴重な機会なので、大切にしています。

— 今後の展望を教えてください。

チャリティーイベントの開催や、子どもたちと楽曲を制作したいと考えています。音楽には人の心を励まし、元気にする力があると信じています。音楽を通じて、子どもたちと一緒に北海道を盛り上げていきたいですね。

佐藤広大さんがDJとして出演中!

サッポロ・シティ・ナビ NORTH WAVE/FM82.5MHz

佐藤広大さんとDJのyukaさんが、イベント情報、季節の話題など、札幌の街の魅力を紹介する広報ラジオ番組です。ぜひお聴きください。  
放送日 第1・3金曜11時35分～11時45分  
内容 円山動物園(3/4)、街に輝く!若者のチカラ(3/18)



ボランティア活動に参加したいときは  
ボランティア活動センターへ

ボランティア活動の紹介や、団体の登録、各種講座の実施などを行う施設です。随時ボランティアを募集しています。  
所在地 中央区大通西19社会福祉総合センター内  
詳細 ☎623-4000 ※19歳もご覧ください



石山の人が気軽に集えるカフェで、

街の魅力を多くのの人に伝えたい

「スリー カフェ」を始め、経緯を教えてください。

**村井** 大学の仲間を誘ってカフェ巡りをしていたので、次第に「自分たちのカフェをつくりたい」という気持ちが生えてきたんです。

**橘** 何か方法はないかと考えていたところ、大学から、石山地区で商店街の活性化に協力する学生を探していると聞き、そのご縁でここにカフェを開くことが決まりました。

「コンセプトは「地域交信カフェ」と伺ったのですが、どのように決まったのですか？」

**橘** まずは、地域の方に顔を知ってもらおうと思い、石山地区のお店を巡ったり、お祭りやラジオ体操などに参加したりしました。そのうち、石山には隠れた魅力がたくさんあることを知ったんです。

**村井** 石山に住む人が「交流」



東海大学×石山商店街  
地域交信カフェ「Three café」  
橘 由さん(左)、村井 健太郎さん(中)、麓 棕太さん(右)

できる場をつくり、地域の魅力を「発信」する、という意味で「地域交信カフェ」をお店のコンセプトにしました。

「運営には資金などが必要になると思います。」

**村井** そうなんですよね。そこで挑戦したのが、札幌市の「商店街学生アイデアコンテスト」です。運よく準グランプリを受賞することができ、その賞金などを店舗の改装費に充てましたが、全然足りず…。

**橘** 商店街や地域の方々に相談したところ、使わなくなったテーブルや椅子を譲ってくださったんですよ。地域の方々の優しさに触れ、とても温かい気持ちになりました。

**村井** そうして、昨年2月14日にオープンすることができました。ここは地域の協力で出来たカフェなんです。

「お店のこだわりは？」

**橘** 地域の製品を提供することです。コーヒー豆は常盤地区、パンは石山地区のお店から仕入れています。他にも、石山在住のアーティストの作品なども販売しています。

東海大学「地域カフェ研究会」

平成26年6月に村井健太郎さんを中心に3人で設立。その後、部員を集め、現在は12人で「Three café」の運営をメインに活動中。3月で村井さん、橘さんから4年生4人が卒業し、後輩にバトンを引き継ぐ。

地域交信カフェ「Three café(スリーカフェ)」

営業時間 水・木・土・日曜11時～18時

所在地 南区石山1の3西村ビル内

商店街の活性化を支援する  
仕組みがあります

夏祭りなど地域のにぎわいを生み出すイベントや、子育て世帯や高齢者の居場所づくりといった地域の課題解決に取り組む商店街を支援する補助制度を設けています。詳しくは産業振興課にお問い合わせください。

詳細 産業振興課 ☎211-2372



地元のお祭りや商店街のイベントでコーヒーを提供する他、サンタクロースの格好をするなど自ら企画して地域の人たちを楽しませている。



コーヒーは豊滝地区の湧き水を使用。また石山地区で採石された札幌軟石のオブジェを展示するなど、店内には石山の魅力が詰まっている。



### 商店街の方に聞きました

学生たちは地域の担い手を発掘し、石山の活性化に貢献したい、という思いを強く持ってくれています。その真摯な姿勢が、商店街や地域の人たちにも伝わっていて、1年もたたずに、小学生から高齢の方までが気軽に集える場となったことは、素晴らしい成果です。村井君たちが卒業し、世代が変わってもこのカフェを続けていけるように、商店街としても応援し、石山のさらなる活性化につなげていきたいですね。



石山商店街女性部 村田 昌代さん

「お客さまとは名前で呼び合うこともあるそうですね。」  
**村井** 地域の方々との交流を深めるために、気軽に名前を呼べるような関係になりたいな、と思っています。皆さんもそれに応えてくれて、その一人が麓君なんですよ。  
**麓** 僕は専門学生なのですが、石山に住んでいて、よくお店に来ていたところ、一緒にやることになったんです。  
**村井** メンバーに石山の出身者がいなかったのですが、地元の人に加わってくれたことがうれしかったですね。  
**橋** お客さん同士もいつの間



東海大学「地域カフェ研究会」のメンバーと石山商店街の皆さん

にか知り合いになっていて、笑顔で話す様子を見ると、ここが交流の場になっているんだと感じます。  
 「地域のつながりが深まっているんですね。お店の今後についてお聞かせください。」  
**村井** 課題は「継続」です。学業が優先ですし、僕と橋さんら4年生は卒業します。でも、こうして1日約30人ものお客さんが来て、楽しんでくれている。大変なこともあるんですが、これからも後輩たちには「地域交信の場」を続けていってほしいですね。

### 他の大学ではこんな取り組みも！

#### 藤女子大学×麻生商店街

大学生が空き店舗の活用法を提案して実現したお店「麻生キッチン りあん」

ひとり親世帯の子どもへの栄養バランスの取れた食事の提供や学習支援の他、料理を提供したい人にお店を貸し出す「日替わりシェフ」などを行っている。

所在地 北区北39西5滝澤ビル内

詳細 麻生商店街 ☎707-9923



#### 大谷大学×伏古商店街

東区産のタマネギ「札幌黄」を活用した新商品「玉ちゃんアイス」を共同でPR

商店街の新名物「玉ちゃんアイス」をPRするため、大学生がパッケージのデザインを担当した他、インターネットを通じて商品を紹介。商店街と学生による取り組みを進めている。

詳細 伏古商店街 ☎786-6990



街 X SPORTS



スポーツを通して

交流の輪を広げていく

「ブラインドサッカーとはどんなスポーツですか？」

5人制サッカーの一つ「フットサル」とルールはほぼ同じです。大きく異なる点はゴールキーパー以外がアイマスクを着けることと、転がると音が鳴るボールを使うこと。視覚に障がいのある方も無い方も一緒に楽しめる競技です。

「競技を始めたきっかけは何でしたか。」

おとししに学校で開催された体験会です。もともとサッカーが大好きで、中学生のときに、視野が極端に狭くなっている病「網膜色素変性症」を患うまでは、少年団に入っていたので、自分からこのスポーツに出合っただけです。今では、自分にとって無くてはならない生きがいになっています。



昨年、地域リーグに初出場し、見事優勝。一つでも多くの試合に勝つことを目標に日々の練習に励む。



とや りゆうの すけ  
戸谷 隆之介さん

1995年、札幌市生まれ。北海道札幌視覚支援学校に在学。ブラインドサッカーチーム「ナマール北海道」のキャプテンで、日本代表強化指定選手にも選出されている。

「ブラインドサッカーの魅力

を教えてください。」  
視覚に頼らなくても普通のサッカーと同じことができる場所です。仲間の声があればパスやシュートだけでなくドリブルもできます。観客は観戦中に音を出さないというマナーがありますが、ゴールを決めたときは大きな歓声でプレーヤーにゴールしたことを教えてくれるんです。あの歓声は何度聞いてもたまりません。

「戸谷さんはブラインドサッカーの普及にも貢献されていると伺いました。」

昨年11月に開催された札幌市の障がい者スポーツイベントに参加しました。体験した方に楽しんでもらえたのがとても印象に残っています。スポーツを通して、健常者と障がいのある方の交流がより広がっていくといいですね。

特殊な鈴の入った専用ボール。選手たちはこの音を聞いてボールの位置を知る。



障がいのある方が暮らしやすい社会の実現に向けて

4月から「障害者差別解消法」が施行となります

障がいのある方への差別を無くすことで、障がいのある方と無い方が共に生きる社会をつくることを目的とした法律です。企業やお店などに対し、障がいのある方への適切な配慮に努めることなどを定めています。

法律の詳細はホームページでもご覧になれます。

障害者差別解消法

検索



詳しく解説したパンフレットを配布

3/7(月)から区役所、市役所3階障がい福祉課などで配布します。ぜひご覧ください。



—どんな事業を行っているのか教えてください。

家庭で子どもを見守る保育士の派遣、イベント会場での保育ブースの運営などです。私も保育士として働いていたのですが、子どもを預けに「特定の場所に行く」ことに負担を感じる保護者の方が多いのではないかと思ったんです。そこで、「場所を問わない保育」をテーマに、起業を決定しました。休日保育など、幼稚園や保育所では対応しづらい保護者の需要に応えられるようなサービスを心掛けています。

—起業当初は苦労も多かったと思います。

半年ほどは、仕事の依頼がほとんどなくて本当に辛かったです。運営資金も稼げないほどで、アルバイトを掛け持ちして何とか運営していました。

大事なものは強い気持ちを

持ち続けること



1人の子どもに複数の保育士が関わる手厚い保育を理想に、起業した今でも保育士として自ら保育に携わる。

きたがわひとみ  
北川 仁美さん

1989年、旭川市生まれ。介護施設や保育施設での勤務を経て、24歳で一般社団法人アイエムアイを設立。小規模に特化した保育サービスを展開する。

地域の課題をビジネスの手法で解決する

「ソーシャルビジネス」

を支援しています

ソーシャルビジネススクール

大学の教授などによる講義やワークショップなどを通じて、起業家としての心構えや、経営理論を学べます。

ソーシャルビジネス・カフェ

経営者を訪問し、起業のきっかけや、事業概要を聞くことができます。

詳細 産業振興課 ☎211-2372



講演会で講師を務めるなど、事業以外にも精力的に活動している。

—事業を安定させるために心掛けていたことは何ですか？  
とにかく目の前の仕事に全力で取り組んだことです。その結果、口コミなどで少しずつお客さまが増えていきました。また、札幌市の支援もありがたかったですね。中小企業診断士の派遣を無料で受けられたことで、事業を再構築できました。そのおかげもあって、徐々に経営が軌道に乗りはじめたんです。

—最後に起業を目指している方へのメッセージをお願いします。  
お金が無い、家族がいる…起業をためらう理由はさまざまあると思いますが、大事なものは、夢を実現させる強い気持ちを持ち続けることです。あなた自身の思いを胸に、等身大の一步を踏み出してみてください。

若い世代の思いを紡ぐ街へ

ここまで4組の若者の活動を紹介してきました。少子高齢化の時代においても、街を元気にしようとする若者はたくさんいます。これからも札幌が魅力的な街であり続けるために、私たちもできることから始めてみませんか。

